

広域連携し未来育てよう

国土形成計画の策定が進められる中、中国地方の課題を踏まえ、より豊かな未来を築くには、どんな取り組みが必要なのか。中国圏広域地方計画の策定に向けて「中山間地域を考えるシンポジウム」中国地方開催促進協議会、中国地方整備局、中国運輸局主催が1月25日、松江市のサンパル・むらもくで開催され、市民や行政関係者ら約200人が参加。基調講演やパネルディスカッションなどを展開し、中山間地域の活性化を図る手立てとして、県境を超えた広域連携や、行政と民間による協働の大切さについて考えた。

パネルディスカッション 中山間地域の課題と今後の地域戦略について

小川 まず生活者の視点から中山間地域のあり方を考えると、医療と福祉の課題が浮かび上がる。過疎地の高齢者をはじめ、誰もが安心して暮らすにはどんな取り組みが大切か。

佐藤 島根県都方村では、97年に特別養護老人ホーム、診療所、歯科診療所、保健センターを併設した総合施設を村の中心地に建設した。保健・医療・福祉を一体化した地域包括ケアを実現することで、入居者の日常生活動作の改善や健康診断受診率の増加、がんの早期発見率の向上などに結びついた。医師とヘルパーの連絡が緊密になったぶん、より早期の治療が可能になり、95歳以上の在宅高齢者が増えるなど、健康寿命も伸び

総合施設を建設

また岡山県の哲西町でも、2001年に庁舎と診療所や保健福祉センター、図書館や文化ホールが一体となった「きりぎりす広場」を完成させ、保健・医療・福祉の充実だけでなく、大きな活力が育っている。

下森 林業の低迷や公共投資の減少、人口流出を背景に、森林荒廃や耕作放棄が進んでおり、状況は厳しい。事態を好転させる特別

相乗効果生む包括ケア 地域ブランドの確立を 下森さん

な手立てではなく、第1次産業や第2次産業などの他の仕事に従事し、一定の所得を確保した上で、「兼業」の形で山林や農地の維持を図っていく方が現実的だ。地域活性化や産業振興には、地域の風土や地形、歴史文化を牽引し受けとめ、等身大で取り組むしかない。

例え私が暮らす島根県津和野町の集落に流れる高津川は、水質に恵まれた美しい川で、貴重な地域資源といえるが、豊かな清流を守るには森林整備が課題だ。まずは森林組合が受け皿となって担い手を養成するとともに、整備への理解や環境意識を高めるための情報発信や交流事業を進めたい。



中山間地域を考えるシンポジウム
～中国圏広域地方計画の策定に向けて～

農村滞在を教育に活用 多様な主体で地域連携 榎本さん 大國さん

大國 中山間地域活性化基本条例を全国で初めて制定した島根県は、1998年に中山間地域研究センターを開設し、中国5県が共同で、地域支援策を研究し、特産品の開発や交流事業などを展開している。

その一方、近年は各地の集落機能が一層低下する中で、地域住民やNPO、さらにはUターンやIターンによる都会からの人材を集めた地域連携協議会が主体となり、地域主導で策定しています。全国計画は2005年に検討が始まり、中間とりまとめを経て、原案がまとまった段階であり、今後の開議決定がなされた後、広域地方計画の本格的な検討に移ります。中国圏の広域地方計画は、すでに2年以上かけて関係者と協

力を探り、それを高めていく取り組みも求められる。中山間地域の活性化には、何よりも、住民が地域に誇りを持ち、地域の特性を活かした市場を創造する意思と発想が大切だ。今は子孫や親戚が農地を引き継ぐことを期待できる時代ではないが、力を探り、それを高めていく取り組みも求められる。

農山村の活性化には、何よりも、住民が地域に誇りを持ち、地域の特性を活かした市場を創造する意思と発想が大切だ。今は子孫や親戚が農地を引き継ぐことを期待できる時代ではないが、力を探り、それを高めていく取り組みも求められる。

中山間地域をひとくくりでとらえるのではなく、日常生活の拠点地域や周辺地域など、それぞれ状況に合わせて対応策を練ると同時に、隣接する山口県、広島県、鳥取県との県境を超えた地域連携も検討中だ。

小川 中山間地域が抱える課題を克服するには医療、福祉、教育、産業づくりなどを個別に進めるのではなく、これを統合・包括し、相乗的に活性化を図る必要があると分かった。その実現には、行政だけでなく、住民団体などの活動も重要であり、道路などの生活基盤や災害対策も欠かせない。この議論を中山間地域の豊かな未来づくりに生かしていきたい。



中国ブロックは、北西部と東南部で経済格差が広がり、人口は減少局面にある。平成の大合併により、多くの自治体が縮小し、中山間地域を抱えている点も特徴といえる。東西に長く伸び、中国ブロックの計画策定に当た

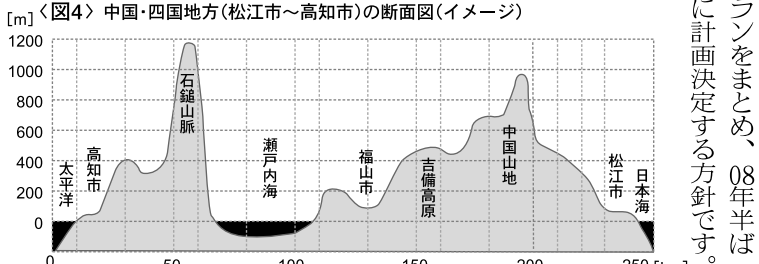
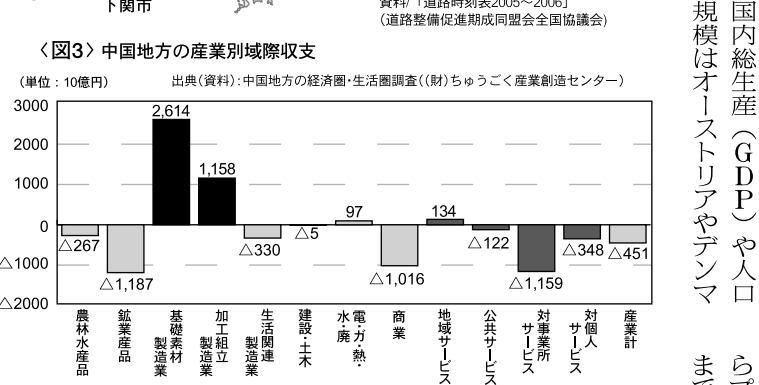
つては、国際広域交流機能を持つ「中核都市圏」、競争力のある産業を備えた「中核都市圏」、人口3〜10万規模の「生活拠点都市圏」、そして「中山間地域」の4層に分けて検討していくことが大切だ。

中でも、人口流出や高齢化による耕作放棄が進む中山間地域をどう守り、再生していくかは最大の課題だ。孤立化する小規模集落をどう維持し、比較的に豊かな集落を組み合わせる一つのアイデアとらえ、医療や福祉など

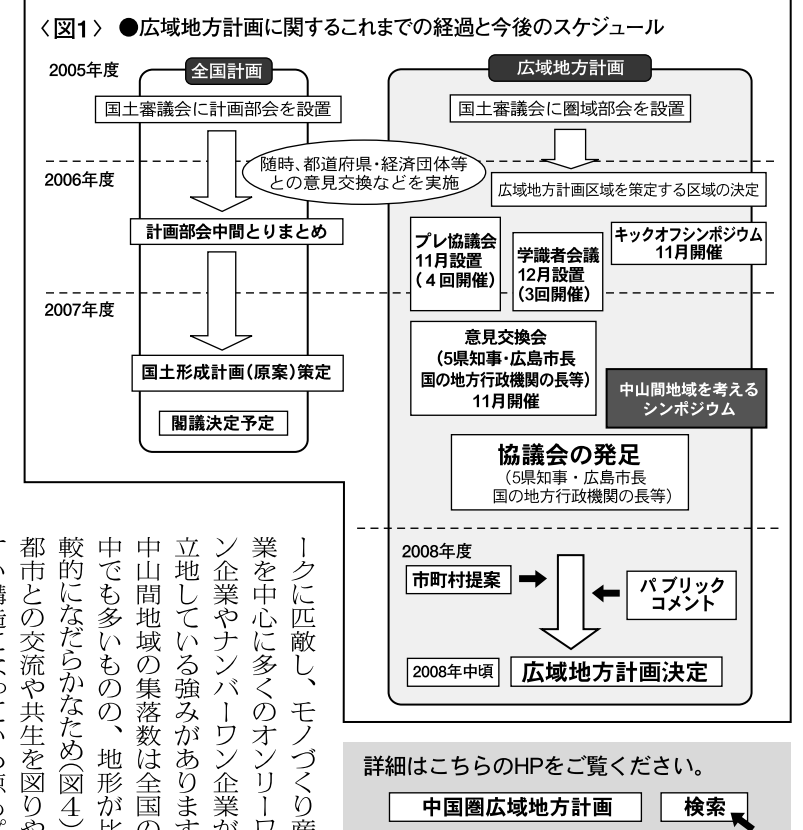
5県共同で振興図れ

中山間地域をひとくくりでとらえるのではなく、日常生活の拠点地域や周辺地域など、それぞれ状況に合わせて対応策を練ると同時に、隣接する山口県、広島県、鳥取県との県境を超えた地域連携も検討中だ。

小川 中山間地域が抱える課題を克服するには医療、福祉、教育、産業づくりなどを個別に進めるのではなく、これを統合・包括し、相乗的に活性化を図る必要があると分かった。その実現には、行政だけでなく、住民団体などの活動も重要であり、道路などの生活基盤や災害対策も欠かせない。この議論を中山間地域の豊かな未来づくりに生かしていきたい。



中国圏広域地方計画に関する検討状況等 経過報告



地域主導でビジョンを策定

国土形成計画は、1962年から5回にわたって策定された全国総合開発計画(全総)にかわる新しい国土計画、国のビジョンを示す「全国計画」と、地方をブロックに分けて施策を示す「広域地方計画」で構成される。

全総では、高度成長期を背景とした社会資本整備などの開発を基調とし、国が決定権を持ち、全国一律に計画を策定しました。しかし国土形成計画では、「安全・安心・安定」を軸に、既存の社会資本どうしを

アンケートにご協力ください。

- Q1 集落や小さな町を維持するためには、生活に不可欠な行政窓口、診療所などがある程度まとめた場所に整備し、そこにアクセスできる交通手段を確保すべきである。
- Q2 拠点医療機関や文化施設などは小さな地域では維持できないので、広域的な役割分担をすることにより必要な機能を確保すべきである。
- Q3 農山村では全ての集落を維持することはできないので、人が住むところをある程度利便性の高い地区にまとめることも止むを得ない。

- Q4 農山村に住む人がいなくなると山が荒れ、土砂崩落など防災面の影響が下流の都市部へ及んだり、美しい農村風景が失われるため、それらを維持するための費用などについては、人が負担してでも行う必要がある。
- Q5 コンピナートや自動車産業などの既存の基幹産業を活かし、東アジアをリードするものづくり産業「地域」を目指すべきである。
- Q6 サービス産業や情報産業など、現在は東京や大阪などに依存している付加価値の高い分野の産業をもっと強化すべきである。
- Q7 地域の特徴の維持や将来の食糧不足に備えるために農林水産業の強化が必要である。

- Q8 中国、韓国、台湾などの経済成長が著しいアジア地域等からの外国人観光客の誘致に力を入れ、観光産業の振興を図ることが重要である。
- Q9 公的なサービスを確保するためには行政だけでは限界があるため、地域住民やNPO、企業、大学などが協力し、一体となって取り組むことが必要である。
- Q10 農山村など地方部の活性化のためには、農村体験や里山サポーターなどによる交流を増やすことを通じ、都市部に住む人を含めて担い手づくりをすることが重要である。
- Q11 あなたは、中国圏の中でどのような地域に住みたいですか？

- Q12 上記以外にご意見などございましたらお書きください。
- 応募方法
- はがき、FAXまたはEメールにアンケートの回答と郵便番号、住所、名前、年齢、性別、電話番号をご記入のうえ、2008年3月7日(金)必着まで下記までお送りください。
- 〒730-8677 広島市中区土橋町7-1 中国新聞社広島局広告開発部「中山間地域に関するアンケート」係
- ・FAX 082(236)2216
- ・Eメール adinter@chugoku-np.co.jp
- 抽選で10名様に図書カード1,000円分プレゼント!